

留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (ユーロ 1€=144 円とする。過 去一年間の平均より 算出。)	日本円	備考
授業料	0	0 円	協定校留学のため学費なし
宿舍費	6,875	990,000 円	アパートメント。月額 625€
食費	1200	172,800 円	
図書費	160	23,040 円	
学用品費	0	0 円	
携帯・インターネット費	228	32,832 円	SIM カードが月額 9€。また、自宅用のインターネット料金が月 10€。
現地交通費	60	8,640 円	学生用のカードを作ると安くなる。バス、水上バスを主に利用した。(<input type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	5000	725,000 円	旅費やオペラ鑑賞、美術館、ピザ教室、音楽鑑賞、ワイナリーツアーなど。
被服費	430	61,920 円	コートを購入したため、多くお金を使ってしまった。
医療費	0	0 円	
保険費	833	120,000 円	形態:
渡航旅費	1,431	213,200 円	
ビザ申請費	0	0 円	
雑費	600	86,400 円	スーツケース購入やお土産、美術品購入など。
その他	130	18,720 円	滞在許可証申請費
その他	120	17,280 円	荷物の送付と関税費用
合計	17,067	2,457,648 円	

渡航関連

渡航経路	
往路 出発地:成田国際空港	目的地:ミラノ・マルペンサ空港 経由地:アブダビ国際空港
復路 出発地:ヴェネツィア・マルコポーロ空港	目的地:羽田国際空港 経由地:イスタンブール空港
渡航費用	
① 往復チケットを購入した場合 航空会社: 料金:	
② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社:エティハド航空 料金:680€	
復路 航空会社:ターキッシュエアラインズ 料金:751€	∴合計:213,200
航空券購入方法	
<input checked="" type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:Trip.com)	
<input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名:エティハド航空ホームページ)	
<input type="checkbox"/> その他()	
滞在形態関連	
1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)	
<input type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前:)	<input checked="" type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ
2)部屋の形態	
<input checked="" type="checkbox"/> 個室	<input type="checkbox"/> 相部屋(同居人数)
3)共有部分	
<input checked="" type="checkbox"/> バス	<input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> キッチン(<input checked="" type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)
4)住居を探した方法:	
Spottedという団体が運営をするテレグラムのぐるーぷがあり、そこで住居を探した。家を貸したい人、借りたい人、ハウスメイトを探している人たちが集まっているグループで、自分の予算や場所などの条件をパブリックで発言をすると、それに見た人がメッセージをくれる。いくつかの候補から一つを選び、自分で契約手続きを行った。	
5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)	
私はイタリア人と一緒に住まなければ、イタリアの文化や生活様式がわからない、と信じていた。そのため、あえて費用が高くなっても、外国人学生が多い寮ではなく3人暮らしのアパートを選んだ。狙いは的中し、1年間を非常に有意義に過ごすことができた。留学先の国の文化を学びたいのであれば、現地人がほとんどを占める住居を探すことをお勧めする。また、現地の言語をいつも話すことができるのも魅力だ。	

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例: 現地の病院、学内の診療所)

- なし
 あり (治療を受けた場所:)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。
(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

- なし
 あり (問題の内容や相談した人等: 滞在許可証の発行に不明な点が多かったのでハウスメイトに相談をした。)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

現地の友人に聞いたり、治安情報についてのブログを読んだりした。防犯対策はこれといって特にしていない。留学を始めてすぐに旅行で言ったフランス・リヨンで iPhone を盗まれることがあったが、予備もあったので事なきを得た。データは保存されていたし、警察署で盗難届を出してもらったので保険金申請ができる。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

イタリア国内では問題がまるつきりなかった。家でもハウスメイトと折半でインターネット契約をしていたので良好な環境であった。国外ではローミングサービスが高価なため、インターネットを調べ物をするとき以外はあまり使わないようにしていた。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか? (例: 現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

外貨獲得には SMBC 信託銀行の国際キャッシュ、デビットカードの Global Pass プレスティアがおすすめだ。要件を満たさなければ月額 2000 円ほどの口座維持手数料がかかるため注意が必要だ。しかし、携帯アプリで日本円建ての口座から外貨建ての口座に好きなタイミングで低レートで換金できたり、外貨建ての口座から海外の ATM で手数料なしで引き出せたり、留学生にはメリットが多いと考える。詳しくは SMBC 信託銀行のホームページを参照してほしい。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

サイズの合う服は持って行った方がよい。食品はアジアショップが多いため高価ではあるが手に入るので無理して持っていく必要はない。モバイルバッテリーやスマートフォンなどの電化製品は日本で買う方が格段に安いので持って行った方がよい。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)	
1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
16 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input checked="" type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: 只今申請中)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input checked="" type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input checked="" type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input checked="" type="checkbox"/> 履修の制限があった: イタリア語能力の証明書がなかったのでイタリア語開講科目は語学の授業以外受けられなかった。	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Italian language Pre-Intermediate B1	イタリア語中級 B1 レベル
科目設置学部・研究科	SIE 科目
履修期間	9 月から 12 月にかけて。
単位数	6
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式、対話形式 (チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 120 分が 4 回
担当教授	Pangallo Francesca
授業内容	イタリア語講義。演習と言語学の 2 種類の授業がそれぞれ行われる。
試験・課題など	演習と言語学それぞれでテストがある。課題も毎回課され 30 分で終わるものや時には 2、3 時間かけなければ終わらないものもあった。
感想を自由記入	B1 レベルということで真剣に勉強をするクラスメイトも多かった。国際的な環境で、友達もできやすかった。演習は文法を学んだり、プレゼンテーションを行ったり会話形式で授業が行われた。一方の言語学は講義型で内容も非常に難解であった。しかしどちらもとても有益で学んだ内容をイタリア人の友達に言うと、なぜそんなことを知っているのだ、と驚かれることもしばしばあった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Italian language Pre-Intermediate B2		イタリア語中級 B2 レベル	
科目設置学部・研究科	SIE 科目		
履修期間	3月から6月にかけて		
単位数	6		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式、対話形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に120分が4回		
担当教授	Lombardo Elisabetta		
授業内容	イタリア語講義。演習と言語学の2種類の授業がそれぞれ行われる。システムはB1と一緒にだが、より難易度の高い授業。		
試験・課題など	演習と言語学それぞれでテストがある。課題も毎回課され30分で終わるものや時には2、3時間かけなければ終わらないものもあった。		
感想を自由記入	授業が終わってからプライベートでCilsというイタリア語の認定試験を受験したが、授業で習ったようなものが多く出題され、難しかったがB2の授業を親身に行ってくれた先生に感謝をした。授業を通してイタリア語の歴史を知り、それが今どう変化しているのかを学べるよい機会になったし、留学前と比べだいぶイタリア語も話せるようになった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Food and Beverage Management		食品管理学	
科目設置学部・研究科	International Studies and Globalization		
履修期間	3月から5月にかけて		
単位数	6		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に100分が3回		
担当教授	Pilone Giorgio		
授業内容	主にホテルやレストランなどの飲食業におけるコンセプトなどを分析し、経営学的視点からどのような食事を提供すればよいのかを学んだ。		
試験・課題など	課題は一切なく試験も基礎知識で解けるような非常に安易なものだった。		
感想を自由記入	テストは非常に簡単であったが、授業は応用もあり、興味深かった。先生もホテルの経営者でフード業界のコンサルティングも行うビジネス畑の方で、質問をしたりされることがよくあり、授業に行くことを楽しみにしていた。この授業は島内ではなく本土のメストレキャンパスで行われるので毎回バスを使って移動していた。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
An open city in historical perspective: venice		開かれたヴェネツィアの歴史	
科目設置学部・研究科	International Studies and Globalization		
履修期間	3月から5月にかけて		
単位数	6		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に100分が3回		
担当教授	Zanon Giulia		
授業内容	どのようにヴェネツィアが発展したのかを学ぶ。		
試験・課題など	筆記試験のみ。		
感想を自由記入	<p>ヴェネツィアに人が移住し始めた経緯から今に至るまでを様々な観点から学んだ。ヴェネツィアに住んでいるため、自分自身を町に関連付けさせて学ぶことができたので楽しかった。イタリア人は故郷愛が強い傾向にあるので、自分の第二の故郷となったヴェネツィアを学ぶことは自分にとって肝要であった。</p> <p>残念だったことは先生の話が配布される資料と何一つ変わらないこと、イタリア語の授業と被り100%出席できなかったことだ。</p>		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
keiEnglish for Economics and Business		経済・ビジネス英語	
科目設置学部・研究科	Economics and Management		
履修期間	9月から12月にかけて		
単位数	6		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式、プレゼンテーション(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に100分が3回		
担当教授	Brisiana Rosemarie		
授業内容	ケーススタディを通して英語能力を高める授業		
試験・課題など	論文提出及び口頭試験と任意のプレゼンテーションがある。		
感想を自由記入	<p>フランス系カナダ人の先生がフォードの経営管理や企業の環境保護戦略等さまざまなケーススタディで専門用語などを講義していた。試験は事前に示されたテーマで論文を書き、またそれとは別のテーマでプレゼンテーションを行った。きちんと提出し、発表できれば単位をもらえるという授業であった。内容は全体的に難しくはなかった。</p>		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Accounting and Business Administration		会計学と経営学	
科目設置学部・研究科	Economics and Management		
履修期間	9月から翌年6月		
単位数	12		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に100分が3回		
担当教授	Scarpa Francesco		
授業内容	前期に経営学があり、後期に会計学があった。学部1年生のための授業で基礎的な講義であった。単位にはならない任意参加の演習の授業も開催されている。		
試験・課題など	会計学は筆記試験で、それに合格すると経営学の口頭試験を受けられる。		
感想を自由記入	会計学を今まで受けたことがなかったのでかなり勉強をしなくてはならなかった。また、ほとんどの授業が必修のイタリア語と被っていたので配布資料を基に自分で学習する必要があった。経営学の試験は9章ほどの長い範囲を細かく覚えなくてはならなかったのでこれにもかなりの勉強時間を使った。その甲斐あって何とか合格し、日商簿記も受けることに決めた。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Game Theory		ゲーム理論	
科目設置学部・研究科	Economics and Management		
履修期間	10月から12月にかけて		
単位数	0		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に100分が3回		
担当教授	Triossi Verondini Matteo Maria		
授業内容	学部3年生向けのゲーム理論の授業。		
試験・課題など	試験は非常に応用的で難解。課題は任意の練習問題がウェブサイトに掲載される。		
感想を自由記入	ゲーム理論への興味から受講を決定した。最初は基礎的で何とか勉強をして追いついていたが、途中から応用数学を前提とした授業になり、テストも非常に難解で受講を断念した。ヴェネツィア大学は授業への参加が必須ではないため興味のある授業に顔を出せることが魅力だ。単位習得はならなかったが難しいことにチャレンジできたことはよかった。		

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:休学

2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など

現在 4 年生の春学期を終えた。留学後は半年間休学をし 2025 年卒業として就職活動をする。

3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。

(例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)

※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学を終え、文化の違いであったり自分の興味であったり、理想と現実であったりと、考えること、悩むことが非常に多い。よっぽどやりたいことが固まって目途が見えるほどでなければ、自分自身を見つめるためにも休学し時間をとってよかった。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	イタリア語学習
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	出願向け情報収集
留学開始年	1月～3月	留学に必要な書類等を作成。奨学金の申請。
	4月～7月	住居探し及び契約、ビザ申請、取得。航空券等必要なものを購入。
	8月～9月	留学開始
	10月～12月	帰りの航空券を購入。
留学/帰国年	1月～3月	冬休み
	4月～7月	帰国
	8月～9月	
	10月～12月	

留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイスなど、自由に記入してください。

留学先を選んだ理由

私はコロナウイルスの招いた自粛期間で、暇な時間が多分にあったので、日本語と英語に次ぐ第 3 言語を学習したいと思い、YouTube でありとあらゆる言語の聞き流し動画を見ました。その中で、なんとなく、自分に相性のよさそうなものがイタリア語でした。早速テキストを買って勉強を始めたのですが、実用性のない学習は性分に合わないので、実際に前述したアプリ、HelloTalk を用いてイタリア人の友達を作り、実際に話すことで実用性を創出しモチベーションを上げていました。そのような中で、イタリア人と出かけ、話をしているうちにイタリアの生活様式やアペリティーボやコーヒー等の食文化、地方を愛する国民性などに心惹かれ、イタリアにぜひ留学したいと考えるようになりました。イタリアの協定校は4つあり、自分の持つ資格で行ける総合大学がヴェネツィア大学しかなかったため、そちらを応募しました。

大学外の活動について

大学外の活動の大きな柱となったのは、旅、フィールドワーク、交流活動の主催でした。私は非常に好奇心が強いので、イタリア内はもちろん、近隣諸国に留学というまたとない機会を活かしてバックパッカーのような旅をして回りました。イタリアでは 10 州、20 都市を回り、諸外国も含めれば 25 カ国、55 都市に赴きました。円安の中でもこれだけ行けたのは、できるだけ多くの場所にいき、肌でその土地を感じてみたいという気持ちからでした。この経験は将来にも様々なよい形で現れると信じています。フィールドワークとは主にイタリアの食文化を勉強することでした。知り合いの教授に相談して地方と食文化にまつわる本を貸していただいたり、ナポリに 4 回行き、独特な街の様子を観察しピッツェリアでピザを作る授業をうけたり、フィレンツェのパスタ工場を直談判して案内してもらったり、シエナのワイナリーツアーに参加したり、アペリティーヴォ(食前酒)の文化を実践してみたり、ここでは書ききれないほど貴重な体験ができました。イタリア専門商社で働きたいと思っているのでこの経験を活かせればよいと考えています。最後の交流活動の主催とは、イタリア人学生と日本人留学生を対象にした言語交換イベントのことで、活動時期としては 2023 年の 3 月から 6 月末まで毎週火曜日に行いました。日本語を勉強したいイタリア人が多いこと、イタリア語を話す機会がないと嘆く日本人留学生が多いことに目をつけて、30 分ずつタンデム式に言語交換を行うグループ、「タンデム」を友人 1 人と創りました。ありがたいことにだいぶ評判も良く、試行錯誤ののち、最初は 10 人ほどで始めたイベントが最後には 60 人ほどに増え、不定期のピクニックパーティーには 100 人以上来てくれるまでに大きくなりました。やりがいもあり、新しい人とも出会えるのでやってよかったと実感しました。

住居について

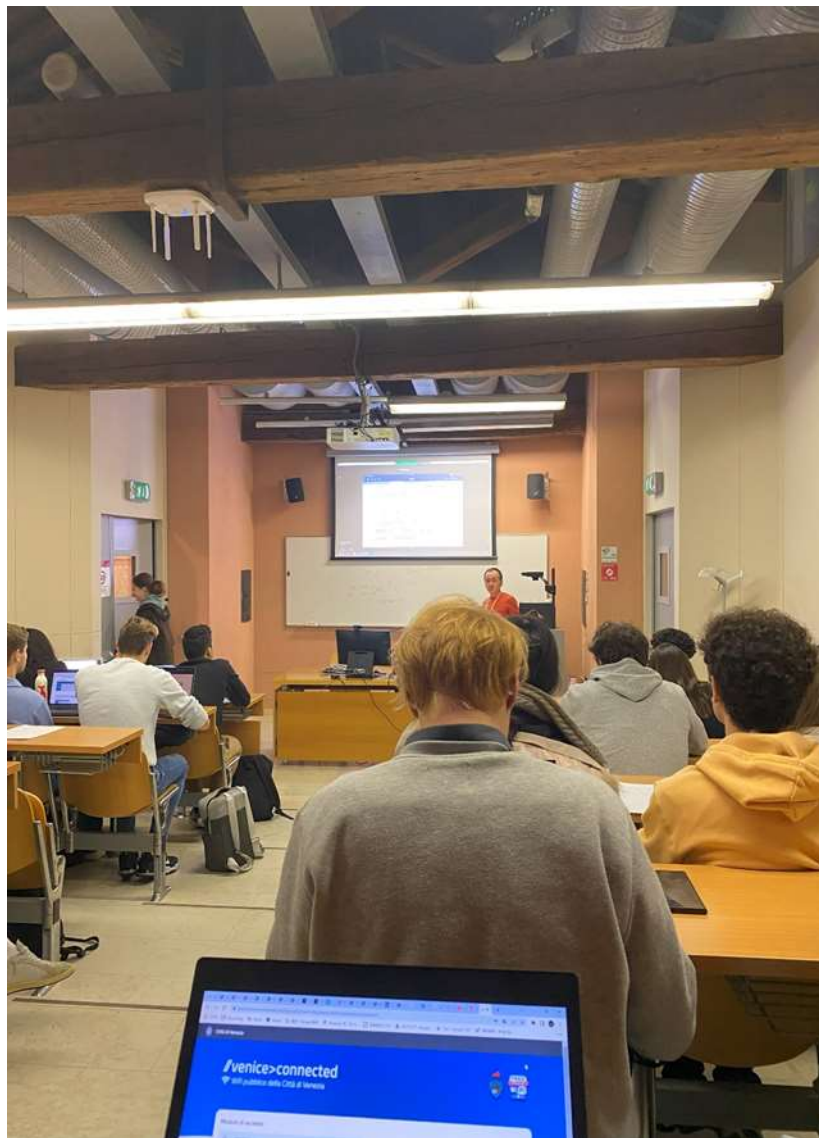
私は、①イタリア人と住むことでわからない文化を勉強したい、②イタリア語を毎日休まずできるだけ使いたい、③自由度が高いという 3 つの主な理由から寮ではなくイタリア人学生の住むアパートメントを見つけてそこで 1 年間暮らしました。キッチン、バスルーム、2 つの寝室がある家で、ヴェネツィア本島にありました。ハウスメイトが 2 人いて合計 3 人の暮らしでした。一人は日本語を学ぶピエモンテ州出身の女子学生、一人はトスカナ州出身の日本語を学ぶノンバイナリーの学生でした。彼は僕と住んで半年がたった時に大学を辞めてしまったので、代わりにロンバルディア州出身の韓国語を勉強する女子学生が入りました。全員ととても良好な関係を築き、食事毎回一緒に取ったり定期的にパーティーをしたり、料理を教え合ったりしました。仲間に恵まれ不都合は何もありませんでした。滞在許可証の発行で困ったり、買い物をお願いしたり、日本語とイタリア語をそれぞれ教え合ったりとお互いに助け合って過ごすことができました。

大学の雰囲気

雰囲気に関しましては私の主観ですので予めご了承ください。ヴェネツィア大学は総合大学です。学部によって雰囲気は大きく異なります。何個か授業を取っていた経済学部は勉強本位であり飾らないような印象を受けました。授業中にゲームをしたり私語をしたりする学生も少なからず混ざっていました。英語での授業を受けていたので世界中から生徒が集まっているグローバルな環境です。ホスピタリティ学部は経済学部よりやや緩い印象でしたがあまり変わらないといっていいでしょう。一方で日本語学科のあるアジア・アフリカ学科は全く異なります。アニメや漫画に影響を受けた学生がほとんどで髪を染めたり奇抜な服を着ていたり、日本人のおとなしく、謙虚にふるまう学生が非常に多かったです。400 人ほどが日本語を学習しているので幸いなことに、嫌でも友達はできます。授業自体はこちらで受けていませんでしたが、ボランティアとして何回も参加していました。一番多く授業を受けていた留学生専用のイタリア語の授業でもドイツ、フランス、韓国、中国、アルゼンチンなど様々な国の学生と一緒に授業を受けていました。一番上のレベルの授業だったためか真面目な学生が多く、休み時間でもプライベートでもなるべくイタリア語で話そうとするなど切磋琢磨できる環境がありました。

留学を志す人へ

留学は人によって「合う、合わない」がはっきりします。そのため、志望先は「英語圏ならどこでもいい」とか「行けばどこでもいい」と鼻から思っているとせつかくの長期留学が 100% 楽しめないと思います。なので、なにか選ぶ根拠となる理由が見つけられれば良いと思います。また、留学はなにも修行ではありません。一度しかない人生の一部です。将来につながるかどうかを気にしすぎるのではなく、留学を幸せに過ごすにはどうしたらよいか、を逆算すればよい準備ができるかと思います。そして、留学という自分自身を異国に飛ばし、自らを異質な存在にするというイベントでは、機会は秋の雑木林でどんぐりを見つけるくらいにあちらこちらに転がっています。それに気が付いて拾えるかどうかは留学の濃密さを変えるものになると信じています。あまり気を張らず、楽しく、健康で充実した留学生生活を過ごしてくださいね。特にイタリアのことならば何でも聞いていただいて大丈夫です。



昔ながらのつくりかたを大事にするスパゲッティ生産者のもとに見学をしに行った時の写真。広報マネージャーさんがノンポイントメントで行ったにもかかわらず丁寧に案内してくださった。手に持っているのは小麦の束。遺伝子組み換えを受けていない昔からある小麦で生産している。





開催した日本人留学生とイタリア人の交流イベント「タンデム」のシーン。



ナポリでピザ教室に通った時の写真。材料やレシピ、練り方などに強いこだわりがあり、ほかの地域とは一線を画すナポリピザの神髄に触れた。



「タンデム」のお別れ会の写真。100人ほどが参加してくれた。



イタリア語の授業を一緒に取っていたクラスメイト達と。フランス人、ドイツ人、カナダ人、韓国人、中国人、アルゼンチン人、イギリス人などと様々。



ワインの試飲会にて生産者に質問をしているシーン。



ヴェネツィアの風景。こんなところで1年住んでいました。



シエナのワイナリーを見学したときの写真。キャンティの樽。



別れ際にハウスメイトたちと撮った写真。



イタリアの文化であるアペリティーヴォ（食前酒）をしている風景。